

記者ノート

ホシガラスの「カーくん」は、自分に自信がない。「自分なんていなくなればいいのに」とささえる。でも、周りの仲間たちが「体の模様がきれい」「カーくんが種を運べば、木が育つ」と教えてくれた。自分の長所が分かって、カーくんは元気になった。

この物語は、子ども

絵本で子どものうつ予防

のうつや自殺予防のためにつくられた絵本「カーくんと森のなかまたち」。

作者の吉沢誠さんと絵を担当した夢ら丘実果さんは先日、木太中で行った出前授業で、カーくんは「うつ状態」にあったと説明。「うつは、心の風邪」だけでなく、風邪をこじらせたら命に危険が及ぶように、うつも同じ」とも、分かりやすいストーリー

と解説に、納得した生徒は多かったようだ。

小中学生にうつや自殺予防なんて早いと思っていたが、吉沢さんは「子どもへの教育が、生涯の自殺予防につながるはず」と力を込める。他人の気持ちを考えるのと同じように、自分の心と向き合う教育が求められている。

(報道部・亀山愛)